

明るく強く我等は進む - 校歌作詞者の想い -

（前略）236名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。卒業する緑学年が2年生だった時の学年の合い言葉は「気づき、考え、行動」でした。3年生になった、この1年間も「気づき、考え、行動」する姿をたくさんみることができました。それが顕著であったのは、学校行事だと思います。修学旅行では、実行委員会が中心となって、3日間の日程や見学場所、見学方法などを企画・立案しました。2日目の班別行動の際にタクシーを使うのかバスなどの公共交通機関を使うのかなどについては、臨時の学年生徒総会を開催し、意見交換を行い、学年生徒の総意で決定をしたと聞いています。企画だけでなく、準備・進行などの運営も生徒主体でした。修学旅行2日目の夜、実行委員や班長が集う中で「これほどまでに、生徒の力で創り上げた修学旅行を見たことがありません」とお話ししたことを今でもよく覚えています。また、今年度の体育祭では、体育祭実行委員会が主体となって、学年を超えた縦割りの団による対抗種目を新たに加えました。団長を中心とした3年生は団の練習を通して、1, 2年生をよく導きました。これは、富士見中学校の体育祭の新しい伝統になると思います。「気づき、考え、行動」する力を身に付けた3年生だからこそできたことです。皆さんを、本当に誇らしく思います。

富士見中学校は昭和22年の開校以来、あまたの卒業生が「文武両道」の精神をよく受け継ぎ、伝統を守り抜いてきました。ただ、それだけではありません。まさに、この卒業生のように、時代や社会の変化に応じ、新たな考え方を取り入れるなど、常に前を向き、進化を続けてきたのです。そこに富士見中学校の強さがあり、誇りがあります。

皆さんは、これから先もこの富士見中学校の卒業生であり続けます。皆さんの進む道は、平坦な道ばかりではありません。時には、大きな困難が行く手を阻むかもしれません。そんなときには、どうかこの学校で過ごした日々を思い出して欲しいのです。

10数年前の第64期生徒会は「校歌を歌える学校」をスローガンにしていました。その時の本部役員の生徒が、本校の校歌を作詞した伊藤敏雄さんにインタビューをした記録が残っています。それによると、学区内にお住まいの伊藤さんが高校を卒業してすぐの頃、（まだ熊谷空襲で焼け跡が残る中です。）「富士見中学校の校歌を募集します」という広告を見て、応募したのだそうです。伊藤さんは、歌詞の一つ一つの言葉に思いを込めています。特に「明るく強く」という言葉を大切にしているとお話になっています。そう言えば、一番から三番まで繰り返し使われていることがわかります。伊藤さんは、当時の生徒に対して次のように語りかけて下さいました。「中学校を卒業したあと、挫折もすれば辛い時もあるはずですが、それでも、先生や友達との絆に感謝し、未来に向かって『明るく強く』進んでいって欲しいです。そういう思いで作詞しました。辛い時には、校歌を口ずさみ、学校で過ごした日々を思い出し、元気になって下さい。」

この後、式が進行し、校歌を歌うときがやってきます。卒業生・在校生このメンバーで歌う最後の校歌です。声高らかに歌いましょう。保護者の皆様の中には、本校の卒業生もいらっしゃいます。一緒に口ずさんでいただければありがたいです。

明るい未来に向け、自分で決めた進路に第一歩を踏み出す卒業生に、改めて「幸多かれ」と祈り、式辞といたします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣